



新年明けましておめでとうございます。  
皆様方には、輝かしい希望に満ちた新春を  
お迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。  
また、平素からの市政運営に対するご理解  
とご協力に厚くお礼申し上げます。

**平** 成17年3月31日、歴史に残る平成の大合併により新生庄原市が誕生し、9ヶ月が経過いたしました。地方分権が進展し地域の自立が求められている今日、危機的な財政状況や厳しい地域経済情勢という荒波の中へ漕ぎ出した新生庄原市は、過疎化・少子高齢化の進行や基幹産業である農林業の衰退、長期にわたる景気低迷による商工業の不振など多くの課題を抱えております。このような中、合併初年である昨年は、「協働と補完」をキーワードに、多くの市民の皆さんの参画をいただきながら、ふるさと発展に向けた取り組みを推進してまいりました。

とりわけ、自治振興の取り組みにつきましては、各地域で積み重ねてこられた活動が結実し、新市において88の自治振興区が新たにスタートしました。それぞれの自治振興区が地域の個性と特色を活かした様々な活動を展開されている中、市としては、自治振興区活動促進補助金や地域ビジネス起業チャレンジ補助金交付制度を創設し、地域の「夢」を地域の皆さん自らが情熱を持って形にしようとする活動を支援するなど、協働による地域づくりを進めてまいりました。

また、市政に対する理解と市民参画による開かれた市政推進のため、合併しました7つの地域において地域審議会を設置し、それぞれの地域にかかる事業計画について諮問を行い、慎重にご審議をいただきました。今後、市域の調和と一体的な発展のため、いただきました貴重なご意見を市政運営に反映させるよう努めてまいります。

全国的に市町村合併が進み、自らのまちを維持発展させるため、各自自治体間における更なる競争激化が予測されます。厳しい財政環境ではありますが、本市においても地域の生き残りに向け、4万3千人余の市民が夢と希望に満ちたふるさとを創造するため、あらゆる方途を講じ、より具体的な事業展開を一步ずつ進めていかなければなりません。今後は、里山の地域を守り育てるための魅力ある農林業の再生、緑あふれる自然環境を生かした観光産業の振興等、市民の総力はもとより市内の全ての機関、機能を結集し、全力で取り組む所存でありますので、絶大なるご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新たな年を迎え、我々がめざす「げんきとやすらぎのさとやま文化都市」の創造に向けて、「自らのまちは自らでつくる」という理念を市民の皆さんと共有しながら、これまで進めてきた歩を止めることなく、より力強く進めてまいれる所存でございます。

市民の皆さまには、夢と希望があふれるまちづくりのため、より一層のご理解とご協力をお願いするともに、新たな年が実り多き幸せな年となりますよう祈念し、年頭のあいさついたします。

# 新たな飛躍の一年に 平成18年 の年頭にあって



新年明けましておめでとうございます。昨年は合併という大事業に市民の皆様、関係者と共に取り組み、ご協力をいただいたことに対し改めて感謝申し上げます。

**庄** 原市は、地方分権時代への胎動が始まったばかりです。合併を議決した責任を心に刻みながら、本市がこれからのどんなまちになればよいのか、そのために何をしなければならぬのか、自治振興区に注目して考えてみたいと思います。

本市の主要施策である農業と観光の振興は、社会の要請を捉えた選択であると思えます。日本の中で我がまちの位置付けを一言で表すなら、「農村」生命を支える生産の現場」となるからです。

「スローフード」、「スローライフ」という言葉が、「憧れ」に語られる背景には、社会の疲れと荒廃があると思えますが、時代の移り変わりに左右されることのない我がまちのスタイルを持つことが社会への生活の提案となり、他者を生かし自らも生かされる共生の道につながるかと考えます。

こうした視点に立つとき、農業振興は自然環境や文化も含めて農村が健全に機能し運営されることであり、

その成果である農業生産物からその対価を得ることとなります。また、観光振興はこうした農村の姿を示すため、この地に誘い感動を与えることとなり、おのずと交流が生まれるものと考えます。

これは、生産・加工・流通・販売・交流が循環し続ける地域総合産業ですから、行政よりも地域が主体となるべき取り組みと言えるでしょう。社会は再び村落共同体に向かおうとしているように見えます。しかし、私たちがめざすのは、慣習にとらわれず交流によって自らを成長させ、地域に暮らす全ての人が社会参画する権利と責任を担う自由な共同体です。これを自治振興区と呼ぶのですが、これから私たちのまちは、自治振興区が連帯し、行政と対等に役割を補完しあう状態へと移行していくものと考えます。

最近注目を集めている「幸福の経済学」という研究分野で、「人の幸福感は経済的な豊かさではなく、住民

の政治的参加状況によって決まる」という事例報告がなされており、感銘を受けました。

新生庄原市では、市民と行政がともに考えともに働く「共考」・「協働」によるまちづくりを支える小さな自治組織として、自治振興区が設立されました。市民が、自治振興区を拠点に市政の意思決定に参画していくという挑戦は始まったばかりですが、市民自身が幸福を追求し、同時に幸福を享受する場がつけられたということに、自治振興区の最も重要な意義があると思えます。住民の政治参加は、自分の運命を自分自身が決めることなのです。

私たちが暮らす地域に磨きをかけ誇り得るまちをつくること、あらゆる機会をとらえて市民の政治参加の場をつくること、そのために、安易に他を模倣せず自分の頭で考え抜くことを、市民の代表たる市議会の一員として心に誓い新年のご挨拶といたします。